

[スケジュール]

14:30～15:30

登壇者

金井志人
(金井工芸代表)

×

吉岡洋
(京都芸術大学 教授)

司会

太田純貴
(鹿児島大学法文学部 准教授)

15:45～17:00

全体ディスカッション

聴講はお申し込み不要です。
懇親会への参加は下記2次元バーコード
よりお申し込みをお願いします。



締切 11/22 15時

伝統工芸と美学

トークイベント
染めを通じて考える

2025//Saturday

12.6

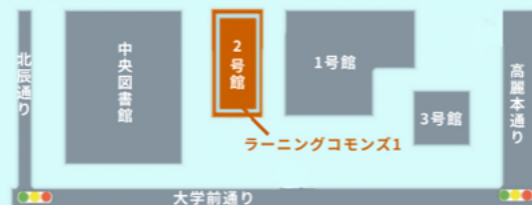
14:30～17:00

一般公開
参加無料

場所

鹿児島大学郡元キャンパス法文学部2号館
ラーニングcommons1

ラーニングcommons1は直接外から入室することも可能ですが、わかりにくい場合は1号館を目指してお越しいただき、館内の案内図を参考にしてください。



大学前通り
連絡先:太田純貴 yota@leh.kagoshima-u.ac.jp



地域の文化の可能性を伝統工芸・アート・イラスト・色・本を焦点に探索するプロジェクト



金井志人

1979年奄美大島生まれ。奄美大島紬の泥染めを担う金井工芸の後継者。泥染めをはじめとする伝統的な天然染色に携わりながら、ファッションブランドとのコラボレーションや、布以外の素材の染色など、新しいジャンルの開拓も積極的に展開している。伝統的な技法を新しい目線で取り入れる姿勢が、多くのアーティストからも支持されている。



吉岡洋

1956年京都生まれ。甲南大学、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）、京都大学を経て、現在京都芸術大学文明哲学研究所／デザイン工芸研究センター所長。美学芸術学、情報文化論に関わる研究・著作とともに、批評誌『ダイアテキスト』（京都芸術センター）の編集、『京都ビエンナーレ2003』『岐阜おおがきビエンナーレ2006』などのディレクターとして企画を行ってきた。近著に『AIを美学する』（平凡社、2025）など。

日本全国に伝統工芸を確認することができると思います。

当然鹿児島にも存在し、その一つとして奄美大島の泥染を挙げる
ことができるでしょう。その一方で、「染め」の技法は日本全国
に見られるものでもあります。例えば、藍染を考えればそれは明
らかです。このような伝統工芸の実践ではどのようなことが起こ
っているのでしょうか？ また伝統工芸はアートのような近接領域
とはどのような関係にあるのでしょうか？ 自然環境との関係
は？ などなど。

今回のトークイベントでは奄美大島で泥染を行う金井志人さんと
美学者の吉岡洋さんをお呼びして、伝統工芸や染めなどについ
て、実践者と研究者の視角から話題提供を行っていただきます。
参加者全員で、伝統工芸について幅広い観点から考えることがで
きればと思います。